



町民文芸

只見短歌会

五月詠草

大塚栄一

指導

花壇にと買ひ来し肥料を病みあとの夫運びみて又もよろめく

古川 英子

風の道なす国道ぞ横切れば吹雪に巻かれ立竦みたり

小倉キミ子

雪消えし畑の土手の鼠穴駆除の薬剤入れつつ巡る

渡部ゆき子

あの家もこの家も子ら巣立ちゆき我が住む集落過疎進むなり

馬場 八智

良き楽の聞こゆる道路の設けられ安全速度を守りて走る

新国由紀子

雪残る道に桜の花びらは低き所に溜りて吹かる

関谷登美子

日盛りに出で行く夫に手押しにて直せるシャツの皺が目につ

目黒 富子

残雪の多き年なればやうやくに植ゑたる稲の伸び目にたたず

渡部ヨリ子

つね荒く物言ふ娘飼猫にも声を落とさず叱る時あり

新国 洋子

(出詠順)

只見俳句会

六月例会

目黒十一

指導

手ざわりと色は脳裏に毛虫焼く

恒夫

風に乗る毛虫の群や声あがる

遠目にも青嶺を削る雪食嶺

吉児

万緑や濃霧生まるる只見川

礼

たっぷりの粒餡うれし蓬餅

古郷の姿の見ゆる笹ちまき
山焼きて蕨育てる村に老い

邦男

母の日やウエスト測る試着室

順子

すぐに止む山の雨なり蛇の殻

思い出す走れメロスや桜桃忌
立ち止まり今年も聞くや揚げ雲雀

信

新緑の幾重の壁画つづら折り

修一

酒米の田植え挑戦女子高生

機械音喧騒止みて田植時
鷺の巣や夜なくに鳴く背戸の山

リウコ

整列し植田見守る村の墓

一穂

遠山に残雪見ゆる梅雨入かな

ぶな若葉宿題詰め込むランドセル
「ただいま」と「おかえり」を待つ桜餅

都

田草取る土手のグミの実熟れし頃

敦子

頬被りの娘がひとり畔草刈